

施工要領 (弊社HPに動画を用意しております)

1 仮設養生

前処理や素地調整に伴って発生するコンクリート殻、粉じん及び洗浄水に対して、またOsmo建築防水用が施工箇所周辺に飛散や汚染の恐れがある場合にはしっかりと養生してください。周辺のガラスや金属に付着しますと固結して取れなくなることがあります。

2 前処理

ひび割れ注入や著しい凹凸の平滑処理、劣化因子を含有した部分および脆弱部分の除去、除去された部分の断面修復を行います。

3 素地調整

コンクリート表面のレイタンスや剥離剤をブラスト処理や電動工具等で除去、あるいは高圧洗浄により清掃するなど、Osmo建築防水用の含浸を阻害する物質を除去してください。

4 一次散水

施工面に適切な量(目視状況:全体に濡れ色が残っている状態 指触状況:わずかに指が湿る程度:含水率約7%:湿潤状態)の水(水道水)を散水します。

5 一次塗布

湿潤状態でOsmo建築防水用原液1㎡当り142g(100ml)をローラー・刷毛等で均等に塗布します。(原液を容器のままよく混ぜること)

6 二次散水

塗布後は30分程度、湿潤状態(目視状況:全体に濡れ色が残っている状態 指触状況:わずかに指が湿る程度:含水率約7%)を保つため散水(水道水)をしてください。

7 二次塗布

湿潤状態でOsmo建築防水用原液1㎡当り142g(100ml)をローラー・刷毛等で均等に塗布します。(原液を容器のままよく混ぜること)

8 洗浄

二次塗布後は30~45分程度散水養生を行います。その後、高圧洗浄等で塗布面の残存薬剤を洗い流してください。

9 施工完了時の確認

周辺のガラス・金属に薬剤が付着している場合にはただちに流水で洗い流してください。



一次散水

一次塗布
142g(100ml)/㎡

二次散水
30分程度

二次塗布
142g(100ml)/㎡

洗浄
30~45分

完了

施工上の注意事項

- Osmo建築防水用は強アルカリ性ですので、作業の際には直接、眼や手につかないよう防護してください。
- 湿潤養生や洗浄に使用する水は必ず水道水を使用してください。(水道水以外の水を洗浄等にお使いになると含まれる成分に反応し、塗布面が白くなる場合があります。)
- シラン系の含浸材(撥水剤)の施工や、塗装をする場合は、Osmo建築防水用を必ず先に塗布し、養生期間(4週間程度)が終了してからお願いします。すでにシラン系含浸材や塗装されている所にはOsmo建築防水用の塗布はお止めください。(事前に確認してください)
- Osmo建築防水用施工前に酸洗いはおやめください。
- 塗布作業および養生は5℃以上の環境で行ってください。(冬期間は採暖による作業・養生環境が必要です)
- 施工環境が30℃を超える場合には施工面に散水をしてください。
- 施工に当っては部位によりロス率を勘案してください。
(ロス率 上向き:15% 横向き:10% 下向き:5%)
- 噴霧の場合には、強風時に施工をすると、設計塗布量を塗布できない恐れがありますので注意してください。
- 施工要領⑧の洗浄が不足すると塗布面が白くなる場合がありますので、十分な洗浄を行ってください。
- 天井面や表面に凹凸がある部位は、水滴ができやすくOsmo建築防水用薬液が表面に残り、白く固化することがありますので注意してください。
- 海の近くの構造物に施工する際は、飛来してくるカルシウム、マグネシウムの影響を受け白くなる場合があります。洗浄をしっかりと行い、試しに小面積での施工をし確認することをお願いします。(詳しくは弊社のHPを参照してください)
- 塗装した面や、ガラス、金属面に誤ってOsmo建築防水用が付着してしまった場合には、ただちに流水で洗い流してください。場合によっては固結して取れなくなります。
- Osmo建築防水用は開封後使い切りでお願いします。(薬液は廃棄物として「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づいて処理してください)

保管上の注意・使用期限

Osmo建築防水用は5~40℃の直射日光を避けた環境で保管をお願いいたします。使用期限は出荷日から1年です。但し未開封の状態で上記の環境で保管されたものに限りです。